

つつきはっけん研究会 中間報告

**神君伊賀越え 逃走路の調査研究
堺～京田辺(草内の渡し)**

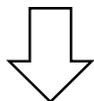
2016. 10. 4

つつきはっけん研究会(THK)

1. 逃走路の検討手順

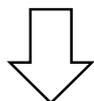
歴史資料調査

記録・・・石川忠総留書、徳川実紀、武徳編年集成、信長公記
報告・・・京都所司代、家譜図（古文書） 軍記物・・・泉堺記事
出版物・・・家康と伊賀越えの危難、伊賀越逃走記



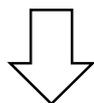
街道里道調査

1. 国土地理院1／25000地図購入
2. 今昔MAP(明治の測量地図、現在比較)
3. 昔の道に近き所を歩行、高低・距離の確認、時間測定



逃走路を記す

1. 国土地理院1／25000地図に、逃走ルート、地名記述
2. パソコン上の地図に逃走コースを記す



通過場所と時刻 一覧作成

1. 通過場所、日時のみまとめ
2. 出来事をつけ加える

2. 史料(歴史資料)調査

1. 石川忠総留書 逃走路については、最も信憑性が高い
石川忠総(1582-1650、伊賀越えに同行した父:大久保忠隣、親戚同行者から聞く)
堺-平野-山ノねき-ホタニ-尊念寺-草地-宇治田原-
2. 徳川実紀 江戸幕府公式記録(19世紀後半、家康の記録は、東照宮御実紀)
逃走路としては、武徳編年集成を参考にして記述
権力者の都合のよいように歪められている。6日間の逃走
飯盛山の麓、河内の尊圓寺村、山城の相楽山田村、木津川渡し
3. 武徳編年集成 木村高敦 (1741、幕臣)、家康伝記、偽書、訂正・書替し吉宗献上
6/2 森口の辺り、変を聞く
普賢寺谷の南相楽郡山田村に泊、梅雪、神君を疑い別れその家来が、
案内人の銀の鍔を奪い、土人が梅雪を草内村で殺害
6/3 木津川、長尾村の八幡山宿泊
6/4 石原村、白江村、老中村、江野村、呉服大明神の神職、服部貞信、多羅尾
丸柱宮内の館に止宿
6/5 伊賀、柘植、鹿伏兔 止宿
6/6 伊勢白子の浦 碧南郡大浜着岸(角屋の大船)
4. 信長公記 太田牛一(右筆、武将・官僚)、信長公式一代記(1589)、記述極少
然るに、徳川家康公、穴山梅雪、長谷川竹、和泉の堺にて、信長公御父子御生害の
由承り、取る物も取り敢へず、宇治田原越えにて、退かれ侯ところ、一揆どもさし合ひ、
穴山梅雪生害なり。徳川公、長谷川竹、桑名より舟にめされ、熱田湊へ船着なり。

5. 新十左衛門末次京都所司代報告書(1650、山口城家臣、新家家譜)

先年権現様泉州堺ヨリ御国へ御下向成サレ候御道筋、河内地ヨリ山城普賢寺谷ヲ御越エ成サレ、草内村ノ渡ヲ御越成サレ候。

権現様宇治田原御通りハ天正十壬午年六月三日ノ巳ノ刻、山口本城ニテ御膳ヲ召上ラレ午ノ刻出門遊バサレ、信楽越エニ御通り成サレ候、

□禅定寺文書(1582.6.5 山口城主が、家康一行に対する禅定寺の取計らいにお礼)

□奥田家家系図(山口城の奥田仁義が手伝う)

6. 家譜図 小山伊織家(飯岡)

津田東山中、山城の間道、興戸、黒岩、飯岡、木津川渡し口、河水暴至、小山太郎左衛門政清、村民赴、御舟郷導、田原至、賜長九寸御懐剣賞之梅雪従神君、子義範先引、上冠急迫、不得渡河、梅雪主従十二人皆自刃

7. 泉堺紀事 柏崎永以(-1772、江戸中期国学者)、日本風土輯記、古今沿革考

守口、佐多天神(萱島)、河内国交野郡穂谷村尊円寺村、宇津木越、山城国相楽郡普賢寺谷、山田村

8. 西井長和説(星田郷土史家、1982年伊賀越逃走記、土地の伝承に基づき組立てた)

堺—柏原—船で河内湖を渡り、深野池東岸(北条)—飯盛山山麓—住吉平田神社—妙見宮—ひそみの藪—西庄田—狭戸(せぼど)—穂谷—興戸—飯岡—井手—和東—信楽 ※かいがけの道は、星田～穂谷の最短路として浮上?(あるブログ)

9. 枚方の歴史(馬部隆弘ほか、2013年、**石川忠総説推挙**)

堺—生駒山麓—東高野街道—山根街道—津田—尊延寺—田辺街道—山城
～山中に入り(山岳修験宿坊・往来あり)～津田郷内穂谷・尊延寺～

10. 川崎記孝(2002、家康と伊賀越えの危難、伊賀郷土研究)

堺—平野—飯盛—枚方—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城—山田—
甲賀山中—信楽—小川城—御斎峠・神山—丸柱—石川—河合—柘植—鹿伏兔—関
—亀山—庄野—石薬師—白子—那古(長太)～大浜—岡崎

11. 池田裕(2005、忍者研究家)

堺—阿倍—平野—山のねき—柏原—飯盛山麓—星田妙見—津田—穂谷—尊延寺—
氷室—天王—普賢寺—水取—多田羅—興戸—草内—長尾村八幡山—石原村—
郷之口—山田村—裏白峠—信楽—小川城—桜峠—神山—丸柱—音羽—河合—
御代—柘植—加太—白子～大浜—岡崎

■信憑性が高いこと、時刻に関すること

1. 家康が本能寺の変を知ったのは、飯盛山西麓
本多忠勝と茶屋四郎次郎が伝える

[石川忠総留書、茶屋由緒書]

2. 宇治田原・山口城に到着したのは、6/3 10時
出発 12時

3. 本能寺の変の知らせ 安土:6/2午前十時(巳の刻) [信長公記] (56km)
奈良: 十時(四つ) [多聞院日記] (40km)
安土: 十二時 [イエズス会]

■整理してみると、

A 堺—平野—飯盛—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城

B 堺—平野—八尾—柏原—恩智川—ふかうの池—北条—住吉平田神社—星田妙見—
津田—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内—

C かいがけの道 —傍示—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内

D —穂谷— 槍越え —興戸 —草内

E —穂谷—尊延寺— 河内峠 —草内

3. 逃走路の概略検討

1. 堺(妙国寺)―住吉大社―長居・鷹合―針中野―平野・加美―久宝寺―八尾・高安

2. 久宝寺―八尾・高安 ~ ~ ふこうの池―深野・北条―住吉平田神社
山のネキ、恩智川を舟で北上 (深化緑地) (野崎) (四條躰)

江戸時代、17世紀になると、河内での綿栽培や木綿生産が盛んであったことはいくつかの記録で明らか。寛永15年(1638)に成立した『毛吹草』という本には、河内の特産のひとつとして「久宝寺木綿」が紹介され、貝原益軒が旅の記録として元禄2年(1689)に書いた『南遊紀行』によれば「河内は綿を多く栽培し、とくに東の山のふもとあたりが多く、その綿から織った山根木綿は京都で評判となっている」

18世紀のはじめ、1704年(宝永元年)に大和川が付け替えられると、それまでの川床は畑として生まれかわり、綿作りがますます盛んになり、木綿織りはさらに発展。18世紀中ごろの久宝寺村(現八尾市)の田畑の作付状況の記録によれば、村の耕地の7割に綿を植え付けたと記され。また八尾や久宝寺などの在郷町や、周辺の村々に木綿を扱う商人たちが増え、仕入れや販売の競争がはげしくなる。宝暦5年(1755)には、八尾の木綿商人の仲間と、高安山麓の木綿商人仲間が、商売の取り決め、(宝暦5年正月「山の根き組定書」西岡文書、八尾市史史料編)。

3. 住吉平田神社―東高野街道北上―東寝屋川・打上付近右―山根の道―
妙見の道・梶ヶ坂―星田妙見宮

・住吉平田神社(三牧宮司)と星田妙見宮(和久田宮司)は、知り合いで道案内人をだす

4. 星田妙見宮―私市・森・神宮寺―倉治―穂谷―尊延寺―宇頭城―普賢寺谷・多々羅―
興戸・草内

- ・津田郷には、織田の恩恵を受けた土豪がいる。彼らが道案内人で、山道を通る。津田経由は大回り。
- ・倉治～穂谷の逃走路にふさわしい道を7/14に確認した
- ・星田から穂谷の最短距離として、かいがけの道があるがそうではない。かいがけの道(傍示経由)は、険しい
- ・槍越えの道について、現在では、不可能である。明治の測量図では、興戸まで続いている。
- ・戦国時代は、どうであったのか確認が必要
- ・穂谷で普賢寺新八に出会ったなら、穂谷～尊延寺～宇頭城を通過する
- ・尊延寺地域の大きさに注目、道路の左右、普賢寺地区の北

3. 住吉平田神社—東高野街道北上—東寢屋川・打上付近右—山根の道—妙見の道・
 梶ヶ坂—星田妙見宮 の詳細

里道

陸路 
 聯路(れんろ) 
 間路 

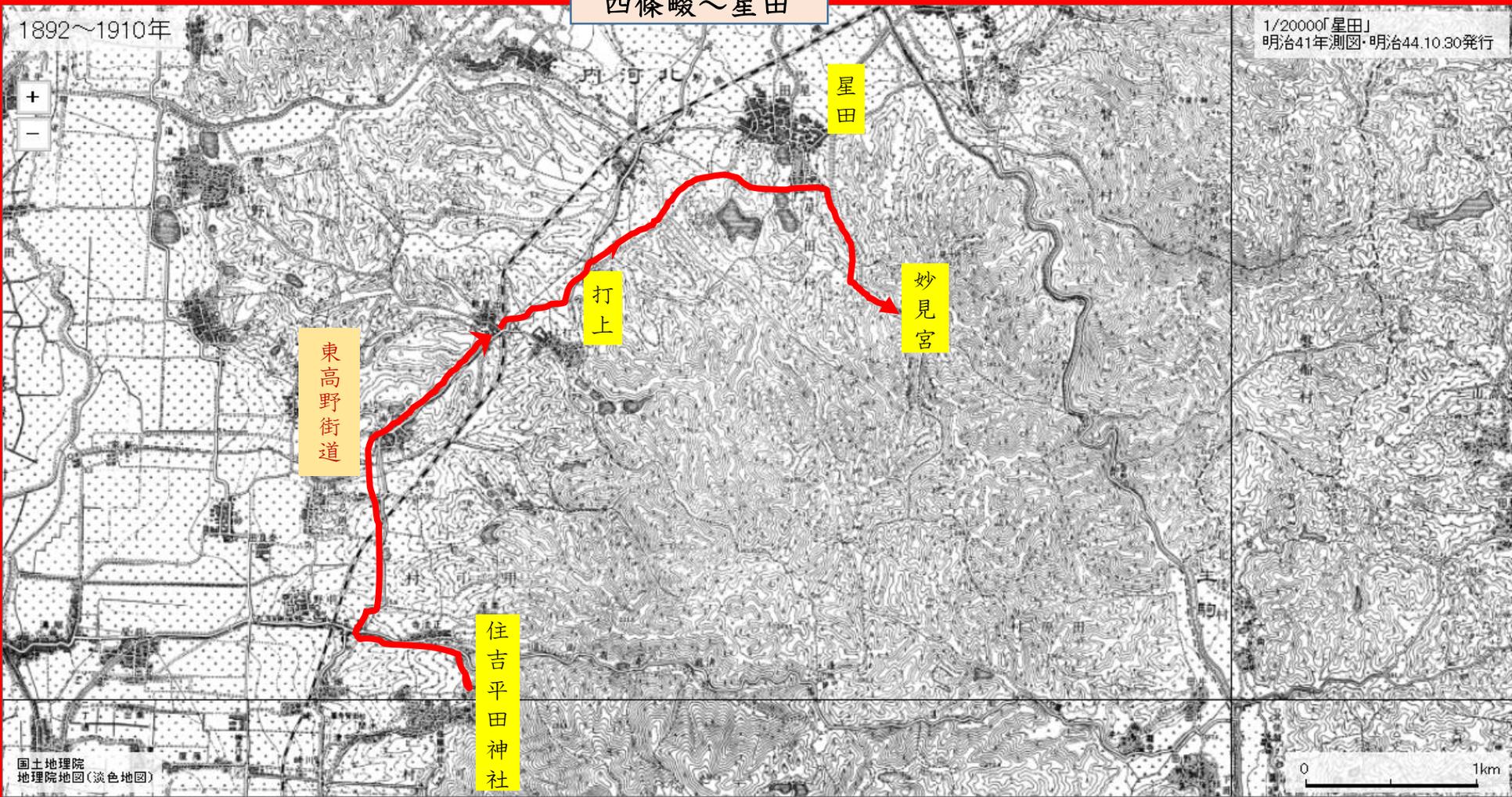
一般の里道
 連なる道
 間道、抜け道



四條畷～星田

1892～1910年

1/20000「星田」
明治41年測図・明治44.10.30発行



東高野街道

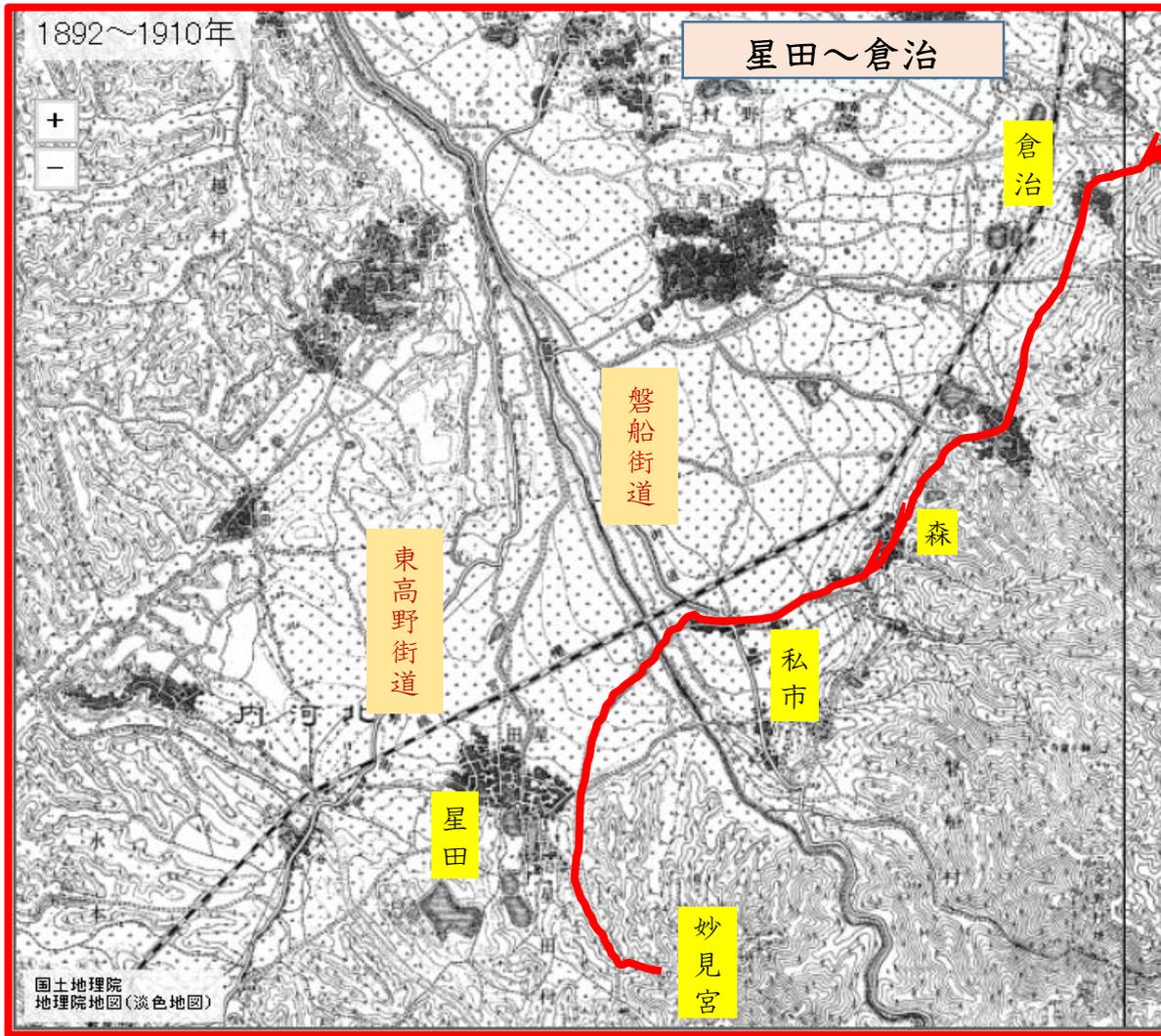
打上

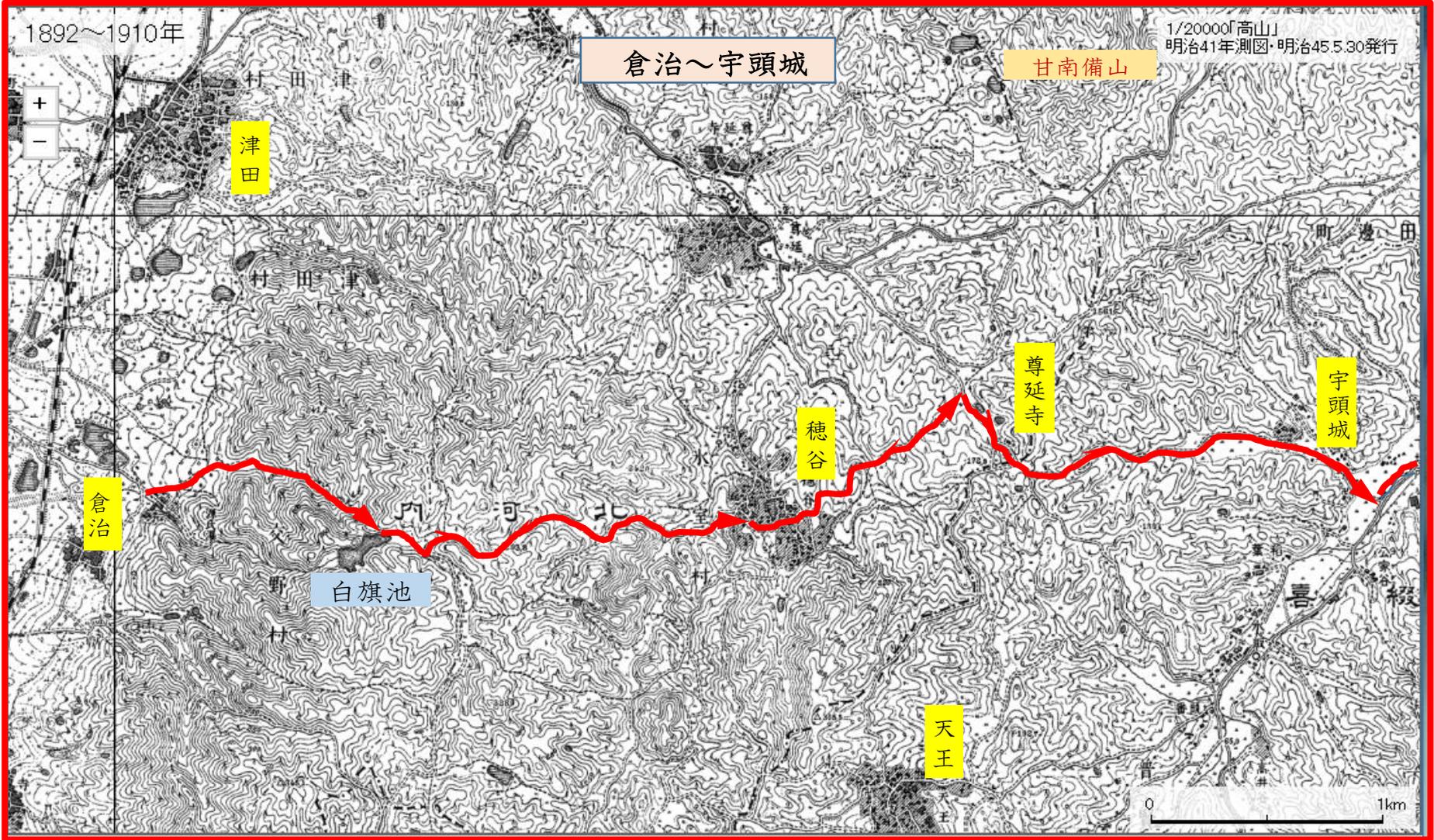
星田

妙見宮

住吉平田神社

0 1km

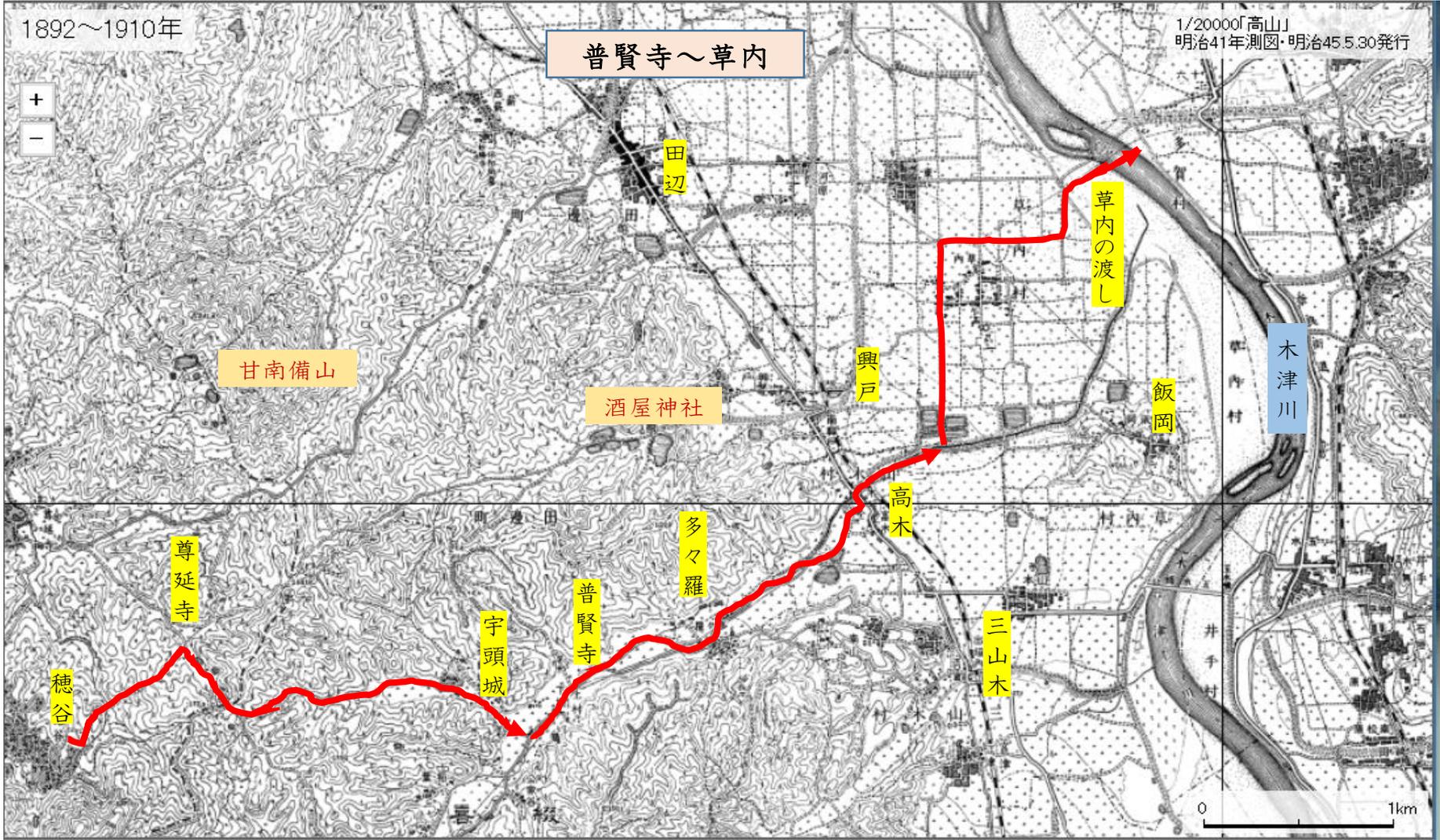


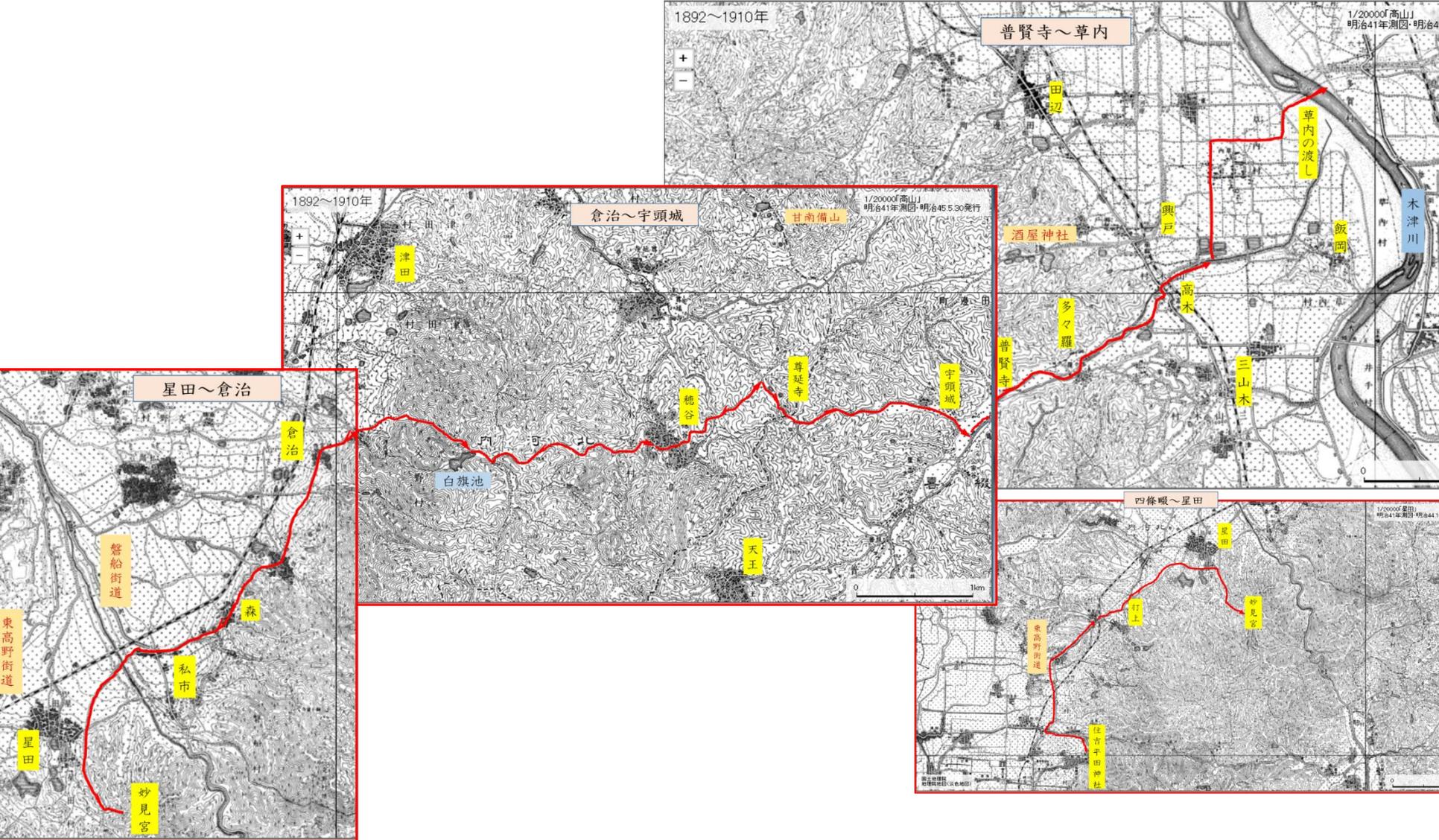


1892~1910年

1/20000「高山」
明治41年測図・明治45.5.30発行

普賢寺～草内





5. 家康伊賀越え逃走路と時刻[堺～宇治田原(郷之口)]

日時	通過場所	距離 km	時刻	出来事	備考
6/2 5時	堺(妙国寺)	} 3.2		信長に御礼の為に京都へ	↑ 逃走ではない
(現7/1)	住吉大社・長居				
	平野・久宝寺・八尾	13.7	10時		堂々と通過
	高安(山のネキ) 恩智川(舟で北上)	10.6		恩智川・・・山のネキ(山根着川)	↓
	ふかうの池(深野)		13時	北条(JR野崎の東)	
14~16時	住吉平田神社	2.1	14時	} 変を知る、逃走作戦会議、昼食	コース関係者連絡手配(長谷川)
17時	星田妙見宮	6.5	17時		
	倉治	5.3	18時	} 倉治～穂谷の山道あり	星田～穂谷最短路(かいがけの道?)
	穂谷	6	20時		
20~ 6/3 2時	尊延寺(そえんじ)	} 5	3時	} 地元新八が道案内	※槍越えの道よりも安全で新八がよく 知っている宇頭城への抜け道を選択 したと思われる 新八:お礼の証文をもらう
	宇頭城		5時		
	普賢寺・多々羅・興戸				
6/3 7時	草内の渡し	6	7時	飯岡 小山太郎左衛門:舟を準備 対岸:山口城家臣ら出迎え	小山氏:九寸の七首もらう (小山家家譜図)
10~12時	郷之口	6.3	10~12	山口城で昼食、馬取換え	京都所司代報告書(1650年) 山口城新十左工門末次

伊賀越え同行者

徳川家康 (34名)

本多忠勝 井伊直政 榊原康政 酒井忠次 石川数正 服部半蔵 本多正盛
石川康通 高木広正 大久保忠隣 大久保忠佐 牧野康成 菅沼定政 久野宗朝
本多信俊 阿部正勝 渡辺守綱 鳥居おます 森川氏俊 酒井重勝 多田三吉
花井吉高 内藤新五郎 都筑亀蔵 松平玄成 菅沼定利 長井直勝 永田瀬兵衛
松下光綱 三浦おかめ 青木長三郎 都筑長三郎 三宅正次 高力清長

穴山梅雪 (11名)

帯金美作守 万沢主税 穴山五郎右衛門 馬場丹後守 跡部因幡守
中山隼人佐 田中一波斎 佐野右衛門佐 窪三太夫 三浦十左衛門 大石弥五郎

■信長の家来 長谷川藤五郎秀一 四條畷、宇治田原、信楽、大和 土地知り
領主・知り合いが多い

信忠の家来 杉原家次

●側用人 茶屋四郎次郎清延 武士、呉服師、戦争時の軍需物資の調達・運搬

●白子浜から船を出す 角屋七郎次郎秀持

●京都呉服商 亀屋栄任 信長生害を伝え、信楽～岡崎同行 [呉服師匠由緒]

家康伊賀越え逃走路検討参考資料

■着眼・考慮点

1. 地形・・・当時と現在の違い
 - ①山、川、池には、変化が少ない
 - ②道・・・昔は、幅が狭い、現在の府道は、昭和以降
2. 逃走には道案内人がおり、手助けした者がいる
 - ①長谷川秀一(信長の家来)は、人的ネットワークあり(大和・宇治田原・信楽に有力な知り合い・協力者を持つ)
 - ②住吉平田神社(四條畷):三牧家神主が妙見宮(星田):和久田家神主を紹介
平田神社:石山の合戦で信長が休憩場所に使った
 - ③京田辺のところは、だれもいないが、ぼったり出会った普賢寺の百姓新八、草内の渡しを手伝った飯岡の小山太郎左衛門(家系図)は土地に伝わること
3. 時間的なこと
 - ①逃走期間は、3日間。(公式記録の徳川実紀は6日間。権力者の都合の良いように歪められている)
 - ②宇治田原の新十左エ門末次の家譜(1650年:京都所司代報告)
6/3 10時 山口城到着、6/3 12時 山口城で食後、出発 → 信用し、逆算すると → →
6/3 8時頃 草内の渡し、6~7時には、家康一行は草内の渡しに到着
 - ③6/2 4時 本能寺の変起きる → →
8時 茶屋信長自刃と知り、12時 交野(星田):本多に伝え、14時 飯盛:家康に伝わる
逃走路検討会議、17時 星田妙見宮
5時 家康塚(妙国寺)出発
4. 塚~四條畷までは、武者行列
四條畷以降が逃走となり、間道、抜け道を行く
5. 家康、老臣が馬に乗る、その他は、歩行
6. 八尾街道を歩いた報告:住吉神社~久宝寺 3時間、ルート明確
明治41年陸軍全国測量地図
7. 京田辺周辺の明治後年の地図(穂谷・尊延寺・天王・集落の大きさ、たなべの小ささ)